

(別記様式)

令和6年度 府立桃山高等学校(定時制) 学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)( 計画段階 ・ 実施段階 )

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 「働きながら学ぶ」という定時制教育本来の意義・目的を正しく認識させ、自主的・計画的に学ぶ生徒を育成する。 2 基礎学力の向上を図る。 3 基本的な生活習慣の確立に努める。 4 指導内容、指導方法の工夫に努め、学習意欲を喚起し、教育効果を高める。	成果 (1) 各学年や各分掌が相互に連携を取り、安心・安全な学校作りに努めた。また、生徒会活動を大切に、多くの校内行事を工夫して成功に導くとともに、クラブ活動の積極的参加を促すなど、多様な生徒に対して各方面で教育成果を上げた。 (2) 進路実現に向けて、「キャリア教育講演会」など、早い段階から進路指導の充実に努めるとともに、各関連企業・機関との連携指導を丁寧に行い、多くの生徒の進路の実現を目指して粘り強く指導した。 (3) 設備面では全日制と併置されている現状において、教務部を中心に校内的な調整を丁寧に行い、教育活動が円滑に進むよう努めた。 課題 (1) 基礎学力の定着及び基本的な生活習慣の確立を図り、希望進路の実現に向けたキャリア教育の一層の充実が重要である。また、クラス担任や教科担当者、関係分掌等が生徒の情報を共有し、個々の生徒の状況に応じた指導方法や指導内容等の工夫をさらに図る必要がある。 (2) 安心・安全な学びの場を確保するため、問題行動等の未然防止を図るとともに、生徒の自尊心や自己有用感を高めるための取組を一層充実させる必要がある。	1 卒業を目指し、高等学校で学ぶこと、並びに「働きながら学ぶ」ことの意義を理解させるとともに、学校生活に目標・目的を持たせることにより、学校生活への定着を図る。 2 生徒が共に学び、助け合い、励まし合う集団の育成を目指して、生徒会活動を大切にしたい取組を進めるとともに、様々な学校行事の充実に努める。 3 希望進路の実現に向けて、3年間・4年間を見通して、早期より、計画的にキャリア教育を推進する。 4 発達支持的生徒指導の視点を持ち、課題予防的生徒指導に取り組むとともに基礎学力の定着と生活習慣の改善を図り、社会性や規範意識の涵養に努める。 5 特別な支援を要する生徒については、外部機関と連携しながら、特別支援会議を中心として支援の内容を明確化、全体化して、適切な指導に努める。 6 学年部と各分掌や、教科担当とクラス担任の情報交換の体制を作るとともに、家庭や関係機関と丁寧に連携を図り、組織的に課題解決のための取組を進める。 7 ICTを活用した教科・ホームルーム指導を積極的に進め、情報活用能力を養う。

※ 評価について A…十分達成できた B…おおむね達成できた C…あまり達成できなかった D…ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和で安全で楽しい学校作りに向けた取組の推進</li> </ul>	各学年・各分掌との密接且つ組織的な連携による平和で安全な学校作りに向け、オリエンテーション等を活用しながら発達支持的生徒指導に努め、日頃からの密なコミュニケーションを通じて課題予防的生徒指導を実践し、それでも問題行動が生じた場合には迅速且つ適切に対処する。	B	各学年・分掌との連携を可能な限り密に取る事により、発達支持的指導・課題予防的指導は概ねスムーズに実施できた。ただし、今年度は困難課題対応的指導においては難しい場面もあり、今後の課題であるとの認識を新たにした。
		生徒が学校に定着できるよう学校生活を楽しいと感じられるものにすべく、生徒会と連携して文化祭を始めとする各行事に積極的に取り組ませて学校生活を充実させ、また部活動を通じて人間関係の幅を拡げつつ活動に対する明確な目標を持たせそれに向けて努力する事での自己肯定感を培う手助けをする。	B	生徒会担当の丁寧な指導により生徒会が積極的に活動でき、ほぼ全ての生徒会行事を成功に導いた。また、少数ではあるが活発に活動する部活動を生徒会として支援できた。結果生徒の定着に大いに資する事となった。課題としては委員会活動の活性化が挙げられる。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に即した教育課程の編成と実施</li> <li>個に応じた適切な学習指導の実践</li> </ul>	多様な観点による学習評価の工夫や改善を図るとともに、教育課程についてさらに研究を深める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程について、実施後の検討課題を引き続き集約し、次年度に検討する。</li> </ul>
		<p>生徒の学力を的確に把握し、基礎・基本を踏まえた粘り強い指導を実践する。</p> <p>生徒の実態に応じてICTを利活用した学習指導の工夫を図る。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で多様な生徒に対応できるように授業内容を工夫・改善できた。ICT利活用は、各教科・個人で研修を通じて、スキルアップを図るなど、授業や特別活動での利活用も進んでいる。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の希望進路実現に向けた取り組みの推進</li> </ul>	進路意識を高めるため、キャリア教育を充実し、推進する。	B	キャリア教育の一環として、各学年進路講演会を実施し、働くことの意義や大切さ等、職業観の育成を図ることができた。また、卒業年次生対象の進路説明会を実施し、進路意識の啓発と進路決定までのプロセスを通して、進路実現に向けての心構えを育成することができた。
		個々の生徒の希望進路を把握し、その実現に向けて、各学年や各分掌、外部機関と密に連携を図る。	B	<p>支援を要する生徒への個別指導、大学、専門学校の出願書類の作成、模擬面接練習等、進路実現につなげる取り組みを行うことができた。</p> <p>希望進路実現のため、生徒とのコミュニケーションを丁寧に行い、生徒理解に努めるとともに、適切な指導・助言が行え</p>

					るよう、より一層、進路指導力を高めていかなければならない。
健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身ともに健康な生活習慣の確立に向けた取組の推進</li> </ul>	<p>健康上の配慮や支援の必要な生徒に対する指導を組織的に推進していく。</p> <p>生徒の食生活の実態を把握し、食育の一環として、給食を通じた望ましい食生活習慣の確立を目指す。</p>	B	B	<p>健康上の配慮が必要な生徒の情報や特別な支援が必要な生徒の具体的な支援策等を、特別支援会議やケース会議・職員会議等を通して全教職員で共通認識を持ち対応した。この支援策に関しては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、必要に応じて医療機関や地域支援センターなどの外部機関との連携も図り、これら専門家からの助言も活かしながら該当生徒の学校生活への適応に努めた。今後も、学校全体としてさらに組織的に推進していく必要がある。</p> <p>生活アンケート結果から、偏食や1日1食、その他乱れた食生活の実態が伺われた。例年、学校医から貴重な助言をいただいているので、活用しながら毎月発行の給食だよりや関係する教科等により望ましい食習慣の大切さの啓蒙に努めた。今年度末にも学校医から新たに助言をいただいたので、食に関する意識向上と生徒自身の健康と生活リズム改善に貢献するために給食喫食を促していきたい。</p>
図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の利用を活性化させ、読書を通じて教養を広げ、心豊かな生徒の育成を図る。</li> </ul>	<p>宣伝・広報活動を行い図書館活用の促進をする。各教科や学年団、各部との連携を取り、図書館や視聴覚機材の活用を図る。</p>	B	B	<p>日常的に生徒の利用も多く、特に定期考査中は学習する生徒でにぎわっていた。また授業でも一定数図書館が活用された。さらに読書習慣の形成に働きかけていく余地がある。</p>
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時の授業を大切にし、進級を目指す</li> <li>学校生活やアルバイトなどの経験を積むことで自己理解を深め、成長する</li> <li>一人一人が集団の形成者であることを自覚し、安心安全な学校生活を目指す</li> </ul>	<p>クラスを越えて情報共有を行い、学年部として生徒対応にあたる</p> <p>学校のシステムやルールについて繰り返し説明する</p> <p>関係分掌や保護者との情報共有および連携に努める</p>	B	B	<p>○授業の出席率が高く総じて前向きに学習する学年集団の雰囲気醸成された。</p> <p>○学年内や関係分掌・教科担当者および保護者との情報共有をして学校全体で1年生のサポートを行ったことで、学校や学年への生徒の帰属意識を高めることができた。</p> <p>○友人と支えあって楽しく学校生活を送ることができている一方で、自ら率先して物事に取り組むことや外の世界に出てアルバイトをすることには消極的な生徒が多いことが課題である。</p>

第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒1人1人の進級をめざす。</li> <li>自他共に認め合う関係をつくり出す。(自己肯定感をもたせる。人格の違いを認め合う。</li> <li>学年集団として安全で安心して学べる、楽しい学校生活をめざす。</li> </ul>	<p>クラスを越えて、生徒の情報を共有する。担任団として学習・生徒指導にあたる。</p> <p>授業を大事にする生徒たちの雰囲気や学習集団、学年集団へと広げていく。</p> <p>関係各部との連携、迅速な対応。保護者への説明、子どもに対する理解と保護責任の協力を得る。</p> <p>発達に課題のある生徒に対して昨年に続き丁寧な指導をする。</p>	B	B	<p>残念ながら個人的な理由ではあるが、進級できない生徒が数名いた。全員進級を目指していたことについては達成できなかった。1年時に比べ集団としてのまとまりは良い方向に向かっている。年間を通していじめ等について生徒からの話は聞いていない。発達に課題のある生徒に対して保健給食部を中心に丁寧な指導ができたと考える。</p>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他共に認めあう関係を深める(自己肯定感を持たせる。人格の違いを認め合う)</li> <li>学年集団として安全で安心して学べる楽しい学校生活をめざす。</li> <li>成人としての自覚を持ち、卒業後の進路を考えて行動できるようになる。</li> </ul>	<p>クラスを越えて生徒の情報を共有し、学年全体を担任するという意識で指導にあたる。</p> <p>関係各部との連携、迅速な対応。保護者への説明、子どもに対する理解と協力を得る。</p> <p>進路を意識できるよう声かけや情報提供をして、進路希望の方向性を持たせるようにする。自立自覚できるように支援する。</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の学校生活や行事を通じて、自他共に認め合う関係を構築することができた。</li> <li>安全で安心して学べる学年集団を形成することができた。</li> <li>それぞれの進路実現に向け、他分掌・保護者等とも連携をしながら方向性を持たせることができた。</li> </ul>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い学年集団を形成する</li> <li>生徒一人一人が自立自覚できるようにする</li> <li>卒業後の進路目標を定め、その実現に向けて取り組む</li> </ul>	<p>日々の授業を大切に欠席をしない</p> <p>自分を認めるとともに、他人も認めて、人間関係を大切に考える</p> <p>ルールを守り、行事を大切に、楽しく学校生活を送る</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人が卒業や進路実現に向けて主体的に取り組めるよう、保護者や進路部と連携しながら、サポートすることができた。</li> <li>授業や行事の欠席が目立つ生徒が、多かった。</li> </ul>
事務・施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心・安全な学習環境の確保と効率的かつ効果的な予算執行の実現。</li> <li>個々の生徒の状況に応じて、修学支援に係る援護制度についての丁寧な対応を行う。</li> </ul>	<p>長寿命化改修工事による2号館の移転に伴い、教育活動への影響を最小限に抑えるとともに、危険箇所、不具合箇所の早期発見、早期改修を行うことで、円滑な学校運営と学習環境の確保に努める。</p> <p>学校全体や各分掌・教科の状況を踏まえ、計画的な予算執行と経費節減に努める。</p> <p>クラス担任や各分掌との連携を密にし、個々の生徒の状況に応じた援護制度について、きめ細かく丁寧な対応を行う。</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>長寿命化改修工事は関係分掌・教科等への調整を丁寧に行ったものの、施工業者や管理課との連携が不十分であったため、施工状況等を適切に周知することができず、生徒・教職員に一部負担を強いることとなった。</li> <li>突発的な修繕等は迅速に対応することができたが、経年劣化による施設の不具合等は管理課への要望にとどまった。</li> <li>関係職員と連携し、援護制度を適切に周知して、必要としている生徒に対する援助がおおむねできた。近年進学する生徒が増えているので、経済的な面での援護制度をより周知していきたい。</li> </ul>